

都城の災異と弱者

日時：2018年3月18日(日) 10:00~17:00

会場：奈良女子大学 文学系N棟 302 講義室

- 10:00-10:10 開会挨拶
西谷地晴美 (奈良女子大学古代学学術研究センター長)
- 10:10-10:50 都城における災異と弱者の救済—問題提起として—
館野和己 (奈良女子大学古代学学術研究センター)
- 10:50-11:30 平城京における災異と救済
吉野秋二 (京都産業大学)
- 11:30-12:10 奈良時代の灯火器と燃灯供養
—二条大路 SD5100・5300 出土灯明皿の分析を中心に—
神野 恵 (奈良文化財研究所)
- 13:20-14:00 王権からの疎外と逃亡—万葉歌に見る逸脱者—
村田右富実 (関西大学)
- 14:00-14:40 平安京における災異と救済
西村さとみ (奈良女子大学)
- 14:40-15:20 平安京跡出土の施薬院関連木簡
小檜山一良 (京都市埋蔵文化財研究所)
- 15:40-17:00 討 論

申込不要 入場無料です

都城といえば、天皇・皇族や貴族たちが住む華やかな場所というイメージが強い。しかしそこも様々な災異—地震・台風・水害・疫病・飢饉などから逃れることはできなかった。とりわけ天平9(737)年の天然痘の大流行は、平城京においても多くの死者を出し、藤原四子政権の崩壊をもたらす大きな災厄となった。都城への人口の集中が病気の蔓延に拍車を掛けたのである。また天候不順が飢餓をもたらすと、外部からの食料移入に頼る都城は、他地域以上に米価が高騰することもあった。災異の影響が、老人・病人・身寄りのない人・貧者などの、社会的弱者に対して特に厳しいものとなることは、現代でも同じである。

為政者たちは都城の災異を、どのように受け取り、いかなる対策を講じたのであろうか。また独自に救済に乗り出した富裕層や宗教者もいたのではなかろうか。本研究集会では、特に平城京と平安京を取り上げ、都城における災異のあり様とその弱者への影響、それに対する公私の対策などを探り、古代都市の抱える問題点を浮き彫りにしたい。

問い合わせ先：奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学コラボレーションセンター205

Phone&FAX 0742-20-3779 E-mail kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp